

第3・4学年 国語科

1 学年の目標

- | |
|---|
| <p>(1) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。</p> <p>(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。</p> |
|---|

2 指導の要点

話すこと・ 聞くこと	<ul style="list-style-type: none">・ 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。・ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。・ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。・ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。・ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。
書くこと	<ul style="list-style-type: none">・ 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。・ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。・ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。・ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。・ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。・ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

<p>読むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ・目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ・目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ・文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ・目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。
<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。 ・長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ・漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 ・送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 ・句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 ・表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ・表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。 ・修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。 ・指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。 ・第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。 ・第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ・漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

3 内容の取り扱い

(1) 「話すこと・聞くこと」について

- ① 中学年では、「相手や目的に応じ、筋道を立てて話す」能力と「話の中心に気を付けて聞く」能力、「進行に沿って話し合う」能力を育てることが求められている。したがって、学習において、以下のような点に留意すべきである。
- 話題については、学校や家庭、地域のことなどで児童が興味や関心をもっている事柄の中から一つに絞って決めさせる。
 - 取材については、本や文章を読む、人に聞く、図表や絵、写真などを見るなどの方法から必要に応じて選択し、要点をメモさせる。
 - 話の相手としては、身近な存在の人々から、異学年の児童や地域の人々へと広がっていく。それに伴って、説明や報告をする、意見を述べるなど、伝えたい目的を明確にして話し合うことができるよう指導する。
 - 話す内容を構成するときには、伝えたいことだけ話すのではなく、関心を抱いた理由や、なぜそのような考えになったのかという根拠、さらに事例などを挙げながら筋道を立て、内容を明確にして構成できるよう指導する。
 - 言葉遣いについては、実際に話すときだけでなく、発表の原稿を準備する段階から注意させ、話す際には、視線、言葉の抑揚や強弱、間の取り方にも留意させる。
 - 話の内容や話し方に関心をもって聞き、分からない点や確かめたい点を質問したり、自分の経験や考えと結び付けたり比較したりしながら聞くよう指導する。
 - 話し合いでは、司会や提案など、話し合いの規模に応じて児童一人一人がそれぞれの役割を果たす機会を設ける。話し合いの規模については、小グループから始め、クラス全体に広がっていくとよい。
- ② 「話すこと・聞くこと」の指導内容については、次のような言語活動を通して指導する。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| ア | 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 |
| イ | 学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 |
| ウ | 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。 |

(2) 「書くこと」について

- ① 中学年では、相手や目的に応じ、調べたことが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書くことが求められている。したがって、学習において、以下のような点に留意すべきである。
- 関心のあることの中から書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を取材させる。
 - 形式段落を十分理解させ、事柄のまとまりを意識して段落の構成を考えさせる。
 - 理由を記述する場合は、「なぜかという〜」、「その理由は〜」、「〜のためである」などの表現を指導する。
 - 事例を記述する場合は、「例えば〜」、「事例を挙げると〜」、「〜などが当たる」などの表現を指導する。
 - 敬体と常体の違いに注意し、文体を統一して書くよう指導する。
 - 推敲については、「文章の間違いを正すこと」と「よりよい表現に書き直すこと」に留意させる。
 - 書いたものを読み合ったり音読したりして、意見を述べ合う場を設定する。

- ② 「書くこと」の指導内容については、例えば次のような言語活動を通して指導する。

ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。
イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。
ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。
エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。

(3) 「読むこと」について

- ① 中学年では、目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことと、読書生活を量的・質的に向上させることが求められている。したがって、学習において、以下のような点に留意すべきである。
- 文章全体の内容や構成からその中心を把握して音読したり、黙読を活用して文章の内容の理解を深めたりできるように指導する。
 - 説明的な文章の読み取りでは、中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりするなどして、内容を整理させる。その際、指示語や接続語、文末表現に注意して読ませるようにする。また、「事実」と「意見」を区別し、文章の内容や構成を把握させる。
 - 文学的な文章の読み取りでは、場面と場面とを関係付けて、登場人物同士の関係や物語の上での役割を読ませる。また、叙述を基に、場面や情景の移り変わり、登場人物の心情の変化についても、地の文や行動、会話から関連付けてとらえさせる。その際、自分の体験と照らし合わせて読ませる。
 - 「引用」に関しては、文章の表現や情報だけに限らず、図表やグラフ、絵や写真なども含むことを留意させ、表記の仕方や分量などについても指導する。
 - 読書の範囲を広げさせるため、学校図書館などの施設の利用方法を指導する。また、図書を紹介するブックトークなどの活動や読書案内、新刊紹介などを積極的に利用させる。
- ② 「読むこと」の指導内容については、例えば次のような言語活動を通して指導する。

ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。
イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。
ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。
エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。
オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

(4) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について

- 短歌や俳句を音読したり暗唱したりして、文語の調子に親しむ場を設定する。
- 「言葉の特徴やきまりに関する事項」では、自分の思考や感情を表すという言葉の働きを理解し、感想や意見を伝えたり共有したりするためには、適切な言葉によって表すことが大切であることに気付くことが求められている。中学年では、言語感覚の基礎を養わせるために、漢字仮名交じり文という日本語の表記の仕方に関心をもち、その利点に気付いて、読みやすい表記を考えながら書くことを指導する。
- 表現したり伝達したりする言葉の主要な働き、音節と文字との関係やアクセントによる語の意味の違い、語句、語彙などの言葉のまとまりに気付かせる。
- 送り仮名については、一つ一つの具体的な語の送り仮名の指導をするだけでなく、活用語尾を送るという送り仮名の原則的な付け方についても指導する。

- 句読点については、文脈に合わせて適切に打つこと、改行については、段落の始めで改行すること、かぎについては、会話の部分などを改行して書くことを指導する。
- 国語辞典や漢字辞典の使い方を理解させるとともに、必要なときにはいつでも辞書が手元にあるような言語環境をつくっておく。また、他教科の学習や日常生活の中でも積極的に利用させる。
- 指示語や接続語の役割を理解し、文章を書く様々な機会をとらえて文脈に沿って使わせる。
- ローマ字は、第3学年の事項とし、ローマ字を使った読み書きが、より早い段階においてできるよう指導する。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
国語への関心・意欲・態度	国語を伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、工夫しながら話したり聞いたり書いたり、幅広く読書したりしようとする。
話す・聞く能力	相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたり、進行に沿って話し合ったりしている。
書く能力	相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書いている。
読む能力	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら本や文章を読んでいる。
言語についての知識・理解・技能	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を形や大きさ、配列、筆圧などに注意して書いている。